



カタクチイワシ(瀬戸内海系群)

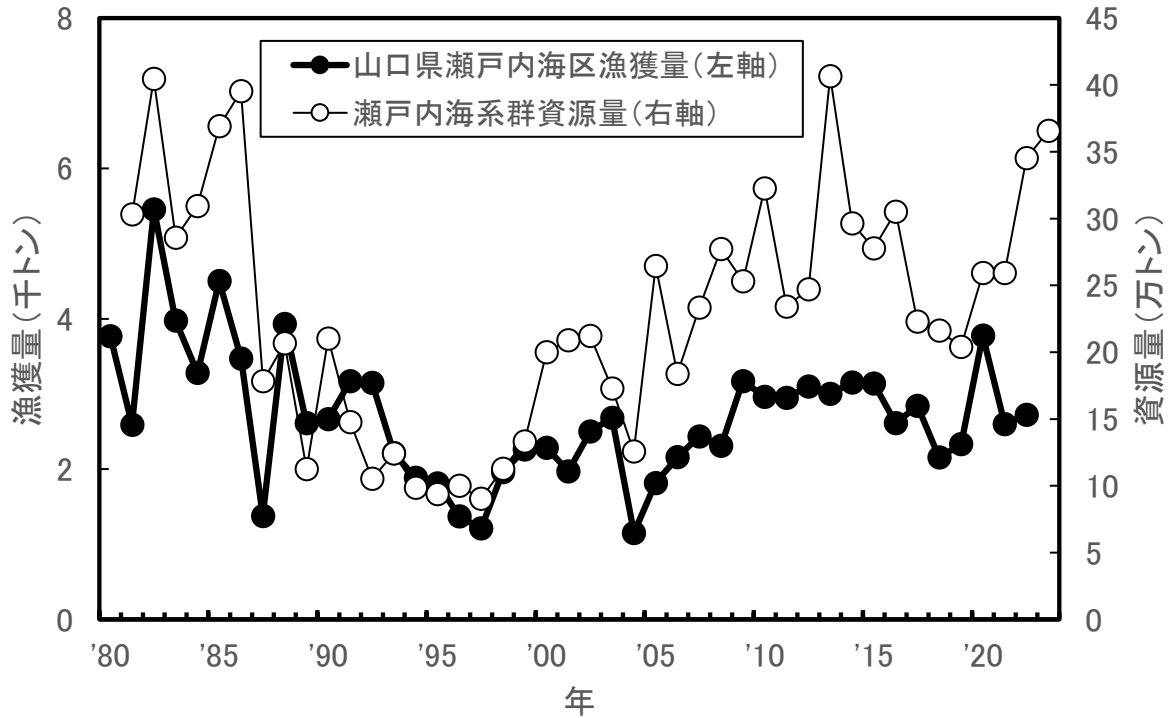


図 山口県瀬戸内海区カタクチイワシ漁獲量(農林水産省統計情報水産業調査 HP)及び瀬戸内海系群カタクチイワシ資源量((国)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】カタクチイワシは主に船びき網で6~11月頃にかけて煮干原料として漁獲されるほか、冬季には、たもすくい網で鮮魚向けに漁獲される。なお、本県瀬戸内海区では基本的にシラスを漁獲対象としていない。

【漁獲量】本県瀬戸内海区の漁獲量は、1982年の5,456トンから減少して1995年に1,811トンで評価期間における最低値となった後、変動を伴いながら緩やかに回復し、2022年には2,723トンであった。

【資源状態】資源量は、1987年に急減した後、1997年には9.1万トンまで減少した。その後は増加傾向を示し、2023年には36.6万トンとなった。

2023年の親魚量は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(目標管理基準値案)を上回っており、同年の漁獲圧も十分に低いため、資源状態の目安となる神戸チャートにおいて、2023年は緑ゾーン(青信号)にプロットされた。

カタクチイワシ瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等

2023年漁獲量	最大持続生産量(MSY)	2023年親魚量	目標管理基準値(案)	限界管理基準値(案)	禁漁水準(案)
4.2万トン*	3.9万トン	5.9万トン	4.3万トン	1.7万トン	0.2万トン

\* 農林統計値からシラスに相当する月齢分の漁獲量を除いた値